令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 美園 小学校 ）　　学校番号　１０３　　【様式】

目指す学校像	美園小の新たな伝統を築き上げ　美園の地に信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校

重点目標	１　「学びの自律化」「学びの個別最適化」「学びの探求化」を図りこれからの時代に求められる資質・能力を育成する ２　安心・安全な教育環境を整備し、人間性豊かな子どもたちを育てる ３　地域とともにある学校づくりの推進 ４　教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくり

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月　２
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○昨年度の市学習状況調査の結果では、現４年～６年において大きな差異はなく、概ね市平均と同等の状況である。但し、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」において課題が見られる他、学びに向かう力に関するアンケート項目においても国語を中心として意識が低い傾向がみられる。 ○ＩＣＴを活用した学びでは、ＩＣＴを活用する優位性への理解や、実際の活用も行われている実態は見られる。しかし、有効的な活用というでは、授業中心に課題が見られ、児童がＩＣＴの活用の有効性を実感できるような授業改善が必要とされる。 ○教科担任制は、５年及び６年で実施している。５年は一部教科、６年では５年よりも更に拡大して実施している。担任以外の教員が多数関わることにより児童理解等での効果が見られる。	・ＩＣＴ環境を最大限に活用した学びの充実	①学校課題研修を中心に、ＩＣＴ環境を最大限に活用した主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を図る。 ②学校での学びと家庭での学びの連続性を重視する。 ③「さいたま市スマートスクールプロジェクト」開発協力校として、「学び方」「教え方」「働き方」の更なる改革の推進に寄与する。	①ＩＣＴを活用した実践の検証を昨年度以上に図るとともに、実践事例の収集と活用が図れたか。 ②家庭学習において、学校との関連を図った取組をＩＣＴを活用して実施することができたか。 ③ＩＣＴを活用することで、授業改善や業務改善を図ることができたか。	①③ＩＣＴの活用において学校課題研修を中心にして研修を進めることができた。授業研究会の実施では、校外への発表を含め計５回実施し、また、活用事例１００選の編集を通して活用を図り、授業改善に全校で努めることができた。 ②ＩＣＴを通じての家庭学習での連続性では、取組状況で学年でのバラつきが見られ、学校全体での取組が図れなかったことは課題である。	B	○ICT は、授業改善における一つのツールであるとの今年度の方針は継続し、今年度の研究の視点「個別最適な学び」「学びの自律化」を更に進化させ、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現を図る授業改善に取り組んでいく。	学校運営協議会委員からの意見は特になく概ね了承を得た。
		・教科担任制による学習指導と生徒指導の質的向上	①専門性を深める授業を実践する。 ②多面的な評価とそれに基づく指導の充実を図る。	○教科担任制の効果検証を実施し、次年度の教育計画に効果を反映させることができたか。	○教科担任制は、６年が国語・道徳・特別活動を除いて、５年生は一部教科を交換で実施することができた。但し、専門性を深める授業実践が可能となったかと言えば十分な成果を得ることはできていない。	B	○学年のスタッフが決定してから教科担任の割り振りが行われる実態があるため、教科指導の観点で専門性を高めるということは限界があることを感じる。	
		・「さいたまＳＴＥＡＭＳ教育」の実践	①｛ＳＴＥＡＭＳタイム｝の確実な実施と改善を図る。	①指導計画通りの実施ができたか。 ②実施の検証を行い、次年度指導計画に反映させることができたか。	○STEAMS タイムの実施では、指導計画通りの実施はできている。	B	○創造性を育む PBL（探究的な学習）では、充実という点で課題がある。	
2	○ポストコロナを意識して、制限をはずした教育活動が展開されつつある。どこまで制限を外して行うか、従来のやり方の効果を十分に吟味した上での内容検討が実施されている。 ○学校教育目標の「きれいな学校」を維持しようとする意識は、児童及び教職員には浸透している。但し、施設の老朽化が徐々に始まり、施設の維持、緑化環境の維持では、金銭的な問題も絡んで難しくなってきている。 ○児童全体では、規範意識や相手を尊重する意識は、ある程度高い状況が見られる。しかし、些細な事でのトラブルも多くなりつつある。	・安心・安全で快適な教育環境づくり	①ポストコロナの状況を見据えた教育活動の実現を図る。 ②学校にふさわしい環境の整備と維持を行う。 ③危機管理意識を高めた対応の充実を図る。	①十分に吟味された内容で教育活動が展開されているか。 ②校舎内外の環境整備が図られているか。 ③児童及び教職員の危機管理意識を高めることができたか。	①運動会は内容を精選した上で多くの保護者、地域の方の参観を可能として実施し、児童にとっても目的意識を高め、やりがいのある学校行事とすることができた。 ②各校門付近にある花壇を整備し、児童が中心となって植栽する活動を行うことができた。ＰＴＡの協力で樹木伐採を実施した。	A	○危機管理では、給食での異物混入の事故は発生してしまったが、適切な対応をとるように努めた。危機管理については、感染症の拡大や災害への対応等様々にあり、引き続き意識を高める取組を実施する。	学校運営協議会委員からの意見は特になく概ね了承を得た。
		・子どもたちの豊かな人間性を育むシステムづくり。	①共通理解と共通行動による生徒指導を実施する。 ②コミュニケーション力の育成・充実を図る。 ③一人ひとりの児童の Weii－being を大切にする支援の充実を図る。	①生徒指導委員会を中心に一致した生徒指導、対応、支援を組織で行うことができたか。 ②挨拶や他者理解等コミュニケーション力を育む指導を実施できたか。	①「三つの基本」や「学校の決まり」を中心として共通理解、共通行動による全校での指導を実施し、児童への浸透を図った。 ③Ｓｏｌａルームの活用や教育相談体制の充実を図ることにより、不登校児童への支援の充実を図った。	B	○不登校児童への支援の充実を図ってきたが、現状としては不登校児童が増加しており、問題の分析や児童理解、問題への対応の検討を図りたいと考える。	
3	○学校だよりや安心メール、諸会議等を通じて、学校の情報を積極的に発信している。また、それらを通じて、連携の強まりが見えるようになっている。これから、更なる強固な連携へと発展させていきたい。 ○昨年度の学校運営協議会では、「『あいさつ』から広がるあたたかな街づくり」プロジェクトを実施し、地域、保護者と学校との連携や小学校と中学校の連携、児童生徒の意識の向上等の成果が見出されている。これを基として、活動の維持継続、展開の拡大を図ることが求められている。	・保護者・地域への情報発信を通した開かれた学校づくり	①学校だより、ホームページ、学年通信、学校安心メール等を効果的に活用する。 ②「学力向上ポートフォリオ」を通した現状理解と手立ての明確化を行う。	○様々なツールを最大限に活用して情報発信を行い、本校への理解を深めてもらうことができたか。	①情報発信については、学校だよりで学校での取組を紹介するよう努めた。学校安心メールでは、緊急性のある情報伝達に厳格に運用を限定して実施した。	B	○学力向上のためタブレットの活用を積極的に図ってきてはいるが、その効果の検証が不十分なため、引き続き検証に努める。	学校運営協議会委員からの意見は特になく概ね了承を得た。
		・地域に根ざした教育の推進。	①合同学校運営協議会、スクールサポート・ネットワークを核にし、学校と保護者、地域が協働した子どもの成長を支え、地域社会作りに寄与するシステムの構築を更に進める。 ②コミュニティ・スクールとして小中合同活動と美園学習の実践を進める。 ③防犯ボランティア等関係機関との連携の充実を図る。	①学校運営協議会の取組を拡大させ、また、ＳＳＮの取組を基にして、協働しての体制づくりを行うことができたか。 ②防犯ボランティア等学校安全ネットワークの連携を基に、児童の登下校の見守り体制を確立し、児童の安全確保を行うことができたか。	①「『あいさつ』から広がる街づくり」プロジェクトは、２年目を迎え、児童や地域には浸透してきていると感じる。 ③防犯ボランティア・保護者による見守りやＰＴＡの協力、学校安全ネットワークの連携により、児童の登下校の安全確保の体制は築くことができている。	B	○学校運営協議会での取組は更に続け、実践を重ねることで子どもの成長を支え、地域社会作りに貢献するシステムとしての成長を図るようにする。	
4	○若手教員や経験の浅い教員が多くなり、教科指導や児童理解、生徒指導、学校運営と様々に懸念が生じている状況は見られる。また、それらの問題に対応するために、年次研修や学校課題研修等様々な場を活用し、資質の向上を図っている。 ○メリハリのある働き方や終業時刻を意識して業務を取り組む等、少しずつ働き方改革への意識は浸透してきてはいる。但し、終業時刻原則１８時３０分、学校閉庁時刻２	・教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上	①教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上を図る。 ②教職員一人ひとりの専門性を深めるための教科担任制や専門性を生かす学年内分担を実施する。 ③ベテラン・中堅教員から若手教員等経験が浅い教員へ教師力の伝承を行う。 ④確実な「報告、連絡、自分の考えや見通しをもった上での相談、見届け」を基盤とした組織的対応を日常化とする。	①様々な取組から、個々の教職員が資質・能力の向上を実感としてとらえることができたか。 ②学校における課題において組織としての対応を実施し、その実践を基に資質・能力の向上を実感することができたか。	①校内授業研究や学校行事、生徒指導等様々な場面を生かして資質向上を図ってきた。 ③学年会や分掌部会、業務改善員会等が教師力伝承の場として機能することができた。 ④特に生徒指導、児童家庭支援において学年を中心とした組織的な対応を実施することができた。特に緊急性のある事案については、緊急で担当者を集結しケース会議を実施する等して、迅速な情報共有、対応策の検討を実施することができた。	B	○資質向上に努めたが、成果として明確に示すことが難しい。また、教科担任制や学年内での分担は実施することができたが、専門性を高めることができたかは不明確である。	学校運営協議会委員からの意見は特になく概ね了承を得た。

	０：００を守る処までは至っていない状況がある。	・働き方改革の推進	①持続可能な働き方の模索と意識改革を図る。 ②終業時刻原則１８時３０分等を意識したメリハリのある働き方を実践する。 ③効率的な学校運営を推進する。 ④業務の平均化と協働意識を醸成する。	①時間外在校時間等を意識して、持続可能な働き方を個々に考え、実践することができたか。 ②学校全体として業務の平準化、効率化を図ることができたか。	①②持続可能な働き方、終業時刻を意識した働き方についての浸透は図られてきており、達成状況は昨年度の実績よりも上回ってきている。 ③業務の平均化により、業務が個人に集中することはすくなくなった。	A	○効率的な働き方を行う職員が多くなり、それらの状況を教職員間で意識している様子が見られており、引き続き取り組めるように促していく。		